

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2023 年 3 月

「神のむすこ娘たち」「なくした銀貨 (I)」「教会と残りの民 (VII)」「ほくほくカリフラワーのフライ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「なくした銀貨 (I)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「神のむすこ娘たち」

7

Sons and Daughters of God

現代の真理

「教会と残りの民 (VII)」

39

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「ほくほくカリフラワーのフライ」

44

レシピ

お話コーナー

「アダム最初の食事 (II)」

46

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2023年2月12日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on
page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

組織がサタンの攻撃から守る

使徒たちの働きの結果改宗した人々の心は、クリスチャンの愛によって和らげられ、ひとつになった。以前には偏見をいだいていたにもかかわらず、だれもが互いに仲よくなった。サタンはこの一致が継続するかぎり、福音真理の進展を阻むことができないことを知っていたので、人々の以前の考えかたを利用して、それによって教会に不和の分子をもたらそうとした。…不満をひきおこすすべてのきっかけを除くために、速やかな処置を講じなければならない。さもないと敵の努力が実って、信者たちのあいだに分裂を招くことになる。

イエスの弟子たちは既に、彼らの信仰経験における一つの危機に直面していた。…教会は絶えず拡張していた。…そこで教会の初期のころ、わずかな人々が忠実に負ってきた責任の分担が、これからは必要となった。…聖霊に導かれた使徒たちは、信者を集めて、教会のあらゆる活動力を更に組織だてて計画のあらましを話した。…

エルサレムの教会の組織は、…教会組織の型となるべきであった。…

モーセやダビデの時代に、神の民の中で指導者を導いた同じ敬虔な正義の原則は、福音による律法の時代に、新たに組織された神の教会を監督する人々によっても、受け継がれなければならなかった。すべての教会において物事をきちんと整え、役員として働くにふさわしい人々を任命するにあたって、使徒たちは旧約聖書に述べられている、指導者の高い標準を固く守った。彼らは、教会で指導的な責任のある地位につく者は「神に仕える者として、責められる点がなく、わがままでなく、軽々しく怒らず、酒を好まず、乱暴でなく、利をむさぼらず、かえって、旅人をもてなし、善を愛し、慎み深く、正しく、信仰深く、自制する者であり、教にかなった信頼すべき言葉を守る人でなければならない。それは、彼が健全な教によって人をさとし、また、反対者の誤りを指摘することができるためである」と主張した（テトス 1:7-9）。

初代キリスト教会で維持されていた秩序によって、彼らをよく訓練され、神の武具を身につけた軍隊として、団結して前進することができた。信者の群れはひろく散らばっていたとはいえ、みな一つのからだの部分であった。すべての者がお互いに一致協力して行動した。のちにアンテオケ…で…起こったように、地方教会で不和が起り、信者たちが自分たちで解決できなくなったとき、…教会に分裂を生じないように、各地方教会から選ばれた代議員及び…使徒や長老たちから成る、信徒全体の総会に問題がもち出された。こうして遠く離れた場所の教会を攻撃しようとするサタンの努力に、全部の人たちが行動を一つにして対抗したので、教会を分裂させようとする敵の計画は妨げられた。

神は昔と同じように今日も、教会の事柄を行うのに秩序と組織とを要求される。神はみわざに承認の印をおすことができるように、それが完璧に正確に進められることを望んでおられる。クリスチャンはクリスチャンと、教会は教会と一致し、人間の力が神の力と協力し、すべての働きが聖霊に従属し、神の恵みのよいおとずれを世に知らせるために、すべてのものが結合しなければならない。（患難から栄光へ上巻 9 章「組織と指導者」）

聖書の教え

なくした銀貨 (I)

「また、ある女が銀貨十枚を持っていて、もしその一枚をなくしたとすれば、彼女はあかりをつけて家中を掃き、それを見つけるまでは注意深く捜さないであろうか。そして、見つけたなら、女友だちや近所の女たちを呼び集めて、『わたしと一緒に喜んでください。なくした銀貨が見つかりましたから』と言うであろう。よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよろこびがあるであろう。」(ルカ 15:8-10)。

これは、当時一日分のお給料として相当な金額だと考えられていました。

パレスチナでは、母親が自分の娘に持参金として 10 枚の銀貨を渡すのが習慣でした。彼女はその持参金を自分の娘が結婚するときに引き継げるように家族の宝として持っておきます。そしてその同じ持参金が幾世代を通じて、母親から娘へと受け継がれていくのでした。この当時の女性たちは、まゆ毛の上にセメディと呼ばれる銀貨で作られたティアラをつけていました。それはつけている人が婚約しているか、結婚しているかのいずれかであることを示していました。もし貨幣が足りないと、その人は遊女だと誤解されかねませんでした。貨幣の価値は、金銭的なものばかりでなく、心情的にもあったのです。その価値は、それらが持つ金額以上のものがありました。

その銀貨のうちの一枚をなくすことは、家族にとって深刻なわざわいでした。ですから、なくした貨幣を取り戻すために必要ならどんな犠牲でも払いました。

低階級の家には、窓がありませんでした。ですから、ともしびがなければ照らすことができませんでした。このような状況で、ほこりの中になくしてしまった何かを見つけるためには、明かりを灯し、家じゅうをはき、なくした物を見つけるまで探す必要がありました。それは本当に長くて大変な働きでした。

わたしの子供のころは、家に電気の光が入るまで、ランタンを使用していました。それには三角形の灯油を入れる器と燃料をしみこませた芯(しん)があつて、火を灯すと部屋にうす暗い光をはなしました。何かを読んだり勉強したりするために貴重な光にたよるよりは、寝たほうが良かったのです。キリストの時代、燃料に油を使用することが一般的でした(マタイ 25:1-8 参照)。

貨幣をなくしたことは、家の女主人の責任とされました。たとえの中で、女はなくした銀貨を取り戻すために、使えるものは何でも使って、探し始めました。

このたとえには、二重の適用があります。それは家庭の中で失われている人々、また教会の中で失われている人々に言及しています。

あるとき、礼拝のあいだに説教をし終わった後、説教者が礼拝堂を去る聴衆たちにあいさつをするために扉のところへ行きました。彼が自分の本を取りに講壇へ戻ったとき、使命者は一人の男の子が教会で泣いているのを見つけました。牧師はどうしたのかとたずねました。男の子は答えました。「牧師さん、ぼくは迷子です」。実におかしなことに、彼の家族は彼を教会に忘れてしまったのです。説教者は、ひとりつぶやきました、「教会の中で失われた」。この事実でわたしは少年イエスがわずか12歳の時にヨセフとマリヤにエルサレムの宮に忘れられたことを思い出しました。

教会や家庭の中で失われるということは、複雑な問題です。ある人は礼拝に出席し、教会に対する義務を果たし、集会には遅刻せずにやってきて、教会の補修にも貢献していながら、なおイエスを知らないがために、失われていることも可能です。すべての外観からは、その人は信徒ですし、自分の義務も果たしていますが、キリストとの関係のうちにないがゆえに、彼は間違いなく失われているのです。これはニコデモ、サウル、またそれ以外の多くの人々の場合がそうでした。彼らは自分たちがアブラハムの子であると信じていましたし、良い行いをしていましたし、宗教教師であり、教会の中で高い地位についていながら、改心していませんでした。彼らのしてきたことは単なる形式だったのです。サウルの場合、彼はクリスチャンに対してユダヤ主義を擁護するのにはなほだ熱心でした。そして、

無実のキリストの従者に対して野蛮な犯罪をおかすことをためらいませんでした。彼は神にすばらしい奉仕を捧げていると信じていました。彼は教会の中で失われていたのです。

家族の中でもまた、一人もしくはそれ以上の子供たちが、教会に行き、活発に集会に出席し、何かの音楽合唱で歌うことによって親の願いをかなえているために、クリスチャンであるかのように見えるかもしれません。しかし、彼らはイエスを知らないがゆえに、家庭で失われているのです。

多くの親は自分の子供や青年が一見宗教的なので満足を示します。しかし、彼らは一度も自分の子供たちの心にキリストの救いの恵みについて語りかけることがないのです。もしかすると両親自身でさえ、教会の中で失われているかもしれません。

この点において、アメリカの教育者エレン・G・ホワイトは次のようにコメントしています。

「このたとえば、家庭の者に対する教訓である。家庭では、よく家族の者の魂がおろそかに扱われがちである。その中には、神から遠ざかっているものもあるだろう。ところが、こうして神からゆだねられたたまもの一人でさえ、家族の中で見失うことがないように気をつけているものはごくまれである。銀貨は、ちりやほこりの中に落ちていても、銀貨であることに変わりはない。銀貨には価値があるから、さがすのである。そのように、どんなに墮落していても、人の魂は、神のみ前には尊い価値がある。貨幣には、統治者の像と記号が刻まれているように、人類には、創造の始めから、神のかたちと記号とが刻まれていた。そして、今こそ罪の影響によって神のかたちがそこなわれて薄らいだとはいえ、まだその記号がかすかながらすべての魂に残っている。神は、魂を回復して、神ご自身のかたちを再び魂に押し、ただしく、聖なるものにしようと望んでおられる」(キリストの実物教訓 174)

神のむすこ娘たち

Son and Daughters of God



3月

わたしたちはキリストの学校に入学する

罪を疲れている者は みな入学するよう勧められる

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ 11:28)

あわれみに満ちた優しい声があなたの耳に聞こえているのは今日である。天の招きがあなたに届くのは今日である。天ですべての者が来なさいと言うのは今日である。(ビュー・アンド・ヘラルド 1869 年 8 月 17 日)

今すべての用意ができたので来なさい。だれでも望む者には来て、生命の水を自由に飲ませなさい。わたしたちに子供のような単純さが必要なのは今である。わたしたちは自尊心や虚栄、愚かな考えがみな捨て去られるのを望む。間近に審判がある。男も女も頼るのに、人間の助力よりも偉大な力を求める。彼らはエホバの力強い腕に寄り頼まなければならない。わたしたちは、人の働きが試みられ、テストされるその日を心にとめており、あなたが準備をすることを願っている。……世的な自尊心、生活上のプライドや虚栄心また愚かさを取り除くようお勧めする。イエスはあなたを愛しておられる。あなたをあわれんでおられる。あなたに仕えるために天軍を送られる。だから全天があなたに関心を示している今、あなたは自分自身に関心を持つのだろうか。(ビュー・アンド・ヘラルド 1869 年 8 月 17 日)

ある人々は、まるで僭越であるかのように、神をその言葉通りに受け入れるのを恐れている。彼らは、主に教えて下さいと祈るが、神の誓いの言葉を信用し、また神に今まで教えられてきたことを信じるのを恐れるのである。我々が、喜んで教えを受けようとの精神を持ち、へりくだって天の父のところに行きさえすれば、神がご自分の約束を果たすことに疑いを持つ必要があるだろうか。……神のみここを知ること求めたら、神と共に働くあなたの役割は、そのみこころを行うことによって導かれ、祝福されることを信じることである。……今日、どこでどのように働くかを示しながら、神の民を導いておられるのもキリストである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 3 巻 1155, 1156)

キリストに学ぶ

「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」(マタイ 11:29)

神なる教師のみ助けによつてのみ、わたしたちは神のみ言葉の真理を理解することができる。キリストの学校でわたしたちはどのように柔和でへりくだった者になるかを学ぶ。信心の奥義をどのように理解するかを、このお方はわたしたちに教えて下さる。(原稿 99, 1902 年)

最高の教育を望む人々に、神は全心全霊を込めてご自分を求めるすべての者の近くにおられることを……学ばせなさい。

人が神のご品性を知れば知るほど、謙遜になり、自分自身についての評価が低くなる。これが本当に神を見つめているという証拠であり、イエス・キリストと一致している証拠である。わたしたちが柔和でへりくだるまでは、神のご品性についていくらかでも概念を持っていると、真に主張することはできない。人は自分がすぐれた資質を持っていると考えるかもしれない。立派な才能、大いなる学識、雄弁、活動、熱心さなどは目をくらませ、空想を楽しませ、表面下のことを読み取ることでできない人々の賞賛を喚起することができる。しかし、へりくだりと謙遜がこれら他の賜物に結びついていない限り、優越感と自己賞揚が見られる。一つ一つの資質が主に捧げられていないかぎり、主が賜物を委ねられたその人々が、自分の資質を唯一神に受け入れられるものとする恵みを求めなければ、主にとって役に立たない僕と……見なされる。「神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をかりしめられません。」……心が溶かされ、屈服する人々、神のご品性の栄光にみちた現われを見た人々は思慮のない推測をすることはない。……彼らが神の驚くべき栄光について持っている意識の中で自己はなくなり、自分自身というものはまったく価値がなくなる。神と共に幸福な、また聖なる歩みをするを重んじる者はみな……神の栄光を少しでも見るなら、果していないことを何一つそのままにしておくようなことはしない。どのような場所でも、どのような環境でも、彼らは神にお目にかかれることを許されるようにと祈る。彼らは神のみ言葉にふるえおののく柔和で悔恨の精神を大切にする。(手紙 87, 1896 年)

そのくびきは負いやすく、 その荷は軽いと教えて下さる

「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:30)

わたしたちはキリストと完全に一致することができるために、このお方のくびきを負わなければならない。「わたしのくびきを負」いなさいと主は言われる。……くびきを負うということは、有限な人間を神のいとしいひとり子と一体にすることである。十字架を取り上げると、魂から自己を切り離し、キリストの重荷をどのように負うかを学ぶ場所に人を置く。わたしたちはキリストのくびきを負い、十字架をにかけてこのお方の後に従って、これを負わなければこの方に従うことはできない。もしわたしたちの意志が神のご要求と一致していないなら、自分の傾向を否定し、気に入っている願望をあきらめ、キリストのみ足の跡に踏み従わなければならない。……

人は負うのに軽く、好ましいと思えるくびきを首にかけようと工夫するが、そのくびきはこの上なく堪えがたいものであることがわかる。キリストはこのことを知っておられ、「わたしのくびきを負いなさい」と仰せになる。あなたがたがびつたりと合うと考えて、自分の首にかけたいと思うくびきは、まったく合わないのである。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、あなたがたにとって不可欠な教訓をわたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。主はご自分の嗣業に関して誤った評価をされることは決してない。ご自分と共に働いている者を量られる。彼らがご自分のくびきに屈服するとき、自分自身のために、また神のみ働きのためになっていないあがきをやめるとき、平安と休息を見出す。彼らが自分自身の弱さに、また欠陥に気づくとき、神のみ旨を行うことを喜ぶ。彼らはキリストのくびきに屈服する。そのとき神は、しばしば人の思いによる計画とは正反対である、ご自分のよしとされるみ旨を彼らの内に行うよう働かれる。天来の聖油がわたしたちに注がれるとき、わたしたちは、たえず魂に休息をもたらし柔和とへりくだりの教訓を学ぶ。(レビュー・アンド・ヘラド 1900 年 10 月 23 日)

あなたに試練があるとしても、その試練をよく忍ぶなら、道のりをより尊いものとするだけである。(教会への証 1 巻 161)

キリストは天来の教師

「イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。」(ヨハネ 6:35)

思いはわたしたちの持っている最高の所有物であるが、世がかつて知った最高のまた最も確かな教育者であるキリストの学校で研究し、熟考し、学ばなければならない。(ビュー・アンド・ヘラルド 1885 年 1 月 6 日)

「わたしは」永遠に続く霊的生命の造り主、養い主、支え主である「生きたパンである」。……このお方の肉を食べ、その血を飲むというのは、このお方を天来の教師として受け入れるということである。このお方を信じる信仰が霊的生命には不可欠である。み言葉を食べる者は決して飢えることなく、渇くことなく、どのように高い地位も決して望まない。(原稿 81, 1906 年)

最も真実で、最も高尚な知識は神のみ言葉のうちに見出される。その簡潔さのうちに雄弁がある。世で偉大であると思われる人々の言葉をとらえ、自分たちが尊重し重んじる必要があるものとして、その人々の言葉遣いについて長々と話すことを喜ぶ人々がいる。あなたは、人間を高め、この世で偉人と呼ばれている人々をほめそやす言葉を聞くであろう。こうすることによって、この人々はみ言葉のうちにあるキリストを見失う。キリストはこの人々にとって、すべてのすべて、すなわち初めであり、終りであつて、あらゆることにおいて最高のお方ではない。この人々は、イエスの足元に座って、この方を正しく知ることが永遠の命であるそのお方について学ぶ必要がある。(ユース・インストラクター 1898 年 12 月 8 日)

聖書は永遠の命へと導く安全な道における導き手である。神は人々に靈感を与え、わたしたちに真理を提供するものや、惹きつけることを記し、また実践するなら、その真理を受ける人を最高の教育を受けた者たちの中に位置づけるような道徳的な力を得させることを記すようになされた。神のみ言葉を研究するすべての者の思いは発達する。他のどの研究をするよりも悟る力を増し、あらゆる能力に新しい活力を与える。……知恵と知識と理解を分け与えつつ、全天との密接な交わりにわたしたちを入れる。……福音は人の霊的な食欲を満たすために、霊的な食物として採用されている。福音はあらゆる場合に、人が必要とするそのものである。(ユース・インストラクター 1898 年 10 月 13 日)

愛によって働く信仰を受ける

「キリスト・イエスにあつては、割礼があつてもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。」(ガラテヤ 5:6)

あなたが主に嘆願するとき、すぐれた学識を自慢するのではなく、へりくだって神の祝福を求める心からの魂の飢え渇きをもって嘆願すべきである。キリストは心のうちに何を大切にしているか、常に知っておられる。主がわたしたちの祈りを聞き、応えて下さることを信じて行かなければならない。なぜなら「信仰によらないことはなにごとによらず罪」だからである。真の信仰は愛によって働き、魂を清める信仰である。生ける信仰は働く信仰である。わたしたちは庭に入って、樹液がなく、葉が青々としておらず、芽ぶいてもおらず、花は咲かず幹や枝に生命のしるしが見えない木を見つけたなら、「この木は枯れている。抜いて庭の外へ捨てなさい。花壇を損なうから」と言うであろう。キリスト教を公言し、霊的でない者はそれと同じである。宗教的な活力のしるしがなく、主の戒めを行っていないなら、生けるぶどうの木であるキリストの内にとどまっていないことは明らかである。(ユス・インストラクター 1894 年 9 月 13 日)

信仰と愛はクリスチャン品性の本質的な力強い、実際に役立つ要素である。これを持っている者はキリストと一つであり、このお方の任務を推進している。……わたしたちはたえず学ぶ者としてキリストの足元に座り、このお方の賜物である信仰と愛をもって働かなければならない。そのときわたしたちはキリストのくびきを負い、その荷を持ち上げる。そしてキリストはわたしたちをご自分と一つの者として認められ、その人は「あなたがたは神の同労者である」と天で言われる。若い人々は、信仰がなければ神に喜ばれることはできないことを、また、愛によって働き、魂を清める信仰でなければならぬことを覚えているであろうか。(ユス・インストラクター 1894 年 8 月 2 日)

わたしたちは単純な信仰と質問しない服従の価値を評価しすぎることはない。品性が完全になるのは単純な信仰によって服従の道を踏み従うことによってである。(原稿 5a、1895 年)

カナンの言葉を話すために学ぶ

「わたしの教は雨のように降りそそぎ、わたしの言葉は露のようにしたたるであろう。若草の上に降る小雨のように、青草の上にくだる夕立のように。」(申命記 32:2)

わたしたちはキリストの証人でなければならない。そして、わたしたちがキリストにある男女の完全なかたちに日々成長するとき、証人となる。日毎にますますキリストのように成長するのはわたしたちの特権である。そのときわたしたちは、自分の愛をこのお方にもっと気高く表し、もっと純潔な言葉を話す力を得て、わたしたちの考えは広がり、深くなる。そしてわたしたちの判断はもっと健全に、もっと信頼できるものとなって、わたしたちの証はもっと生命と保証にみちたものとなる。わたしたちは地上の言葉を培ったり、人の会話によく親しんだりするがゆえに、カナンの言葉が自分にとって新しく親しみのないものにならないようにすべきである。わたしたちはキリストの学校で学ぶべきであるのに、多くの人は霊的な事柄において、非常に乏しい経験で満足している。その人々は祈りと証の中に霊的な事柄に関してほとんど知識がないことを表している。地上の移ろいやすい雑事に関することよりも永遠の事柄に関すること、あまり良い判断が見られない。

クリスチャンはますます天のことを学び、もっと神のみ旨と言葉を学び、真理をもっと学んで、自分たちが得た知識をどのように忠実に用いるかを学ぶために、キリストの学校で忠実な生徒にならなければならない。(ユース・インストラクター 1894年6月28日)

言葉について最大の必要は、それが純粋で親切で真実でなければならないことである。言葉はすなわち「心の美德が外部に表現されたもの」でなければならない。……言語学習の最上の学校は家庭である。

親切なことは人の魂に朝露やおだやかなにわか雨のようなものである。聖書には、キリストのことに関して、「疲れた者を言葉をもって助ける」ことができるように、恵みがイエスのくちびるにそそがれたと言われている。また神はわたしたちに命じておいでになる。「聞いている者の益になるように」「いつもやさしい言葉を使いなさい」と。(アドベンチスト・ホーム 496)

心が純潔であれば、知恵の豊かな宝がわき出てくるであろう。(アドベンチスト・ホーム 500)

むなしいだましごととへつらいに 氣をつけることを学ぶ

「あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、氣をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの靈力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない。」(コロサイ 2:8)

へつらいは人が自分自身を高めて慢心するよう、またその人をだますためにサタンが待ち伏せする技巧である。……へつらいは教会の若い人たちの多くがそれによって養われてきた食物であり、ほめたりへつらってきた者は自分たちが正しいことをしていると思っていたのであるが、間違ったことをしていたのである。賞賛、へつらい、放縦は、サタンが考案した他のどの技巧よりも、尊い魂を間違った道に導いてきた。へつらいは世の方針の一つであり、キリストの方針ではない。意志薄弱で弱々しい人間はへつらいを通して、自分たちが有能で、尊敬に価すると思え、世俗的な心で得意になる。彼らは自分が持っている以上の能力を持っていると考えて有頂天になり、その宗教経験が均衡のとれたものではなくなる。神の摂理のうちに、彼らがこれらのだましごとから離れ、改心してキリストの学校で宗教のABCから学ばないかぎり、自分の魂を失ってしまう。若者の多くは、自分が生来能力を持っているとおだてられてきた。自分が持っていると考えている能力はただ勤勉な訓練と修養を通して、キリストの柔和とへりくだりを学ぶときのみ得ることができるのである。……神は、人が自分自身の弱さを理解できるようにと、その人が敵に攻撃されるのを許される。人は何か決定的な大失敗をし、痛みを伴うへりくだりへと追い込まれることがある。しかし自分自身の弱さを感じて苦悩しているときに、その人は厳しく裁かれるべきではない。……それはこの人が、過ちを忍耐強く、誠実に取り扱う……友を必要としているときである。……この人はへつらいという救いの手で持ち上げられてはならない。……むしろはしごの第一段をさし示されて、進歩というはしごの一番下の段に、そのよろめく足をのせなければならぬ。……賢い助言者の助けをえて、その人の欠陥は勝利へと変わる。(ユース・インストラクター 1894 年 5 月 24 日)

苦悩はわたしたちが 天国を求めるようにと教える

「なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。」(コリント第二 4:17)

主はご自分の民が試練をまぬかれるという約束はなさらなかったが、はるかに良いものを約束された。主は「あなたの力はあなたの年と共に続くであろう」と言われた。「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。もしあなたが主のために火の燃える炉を通して召されるならば、イエスはバビロンの忠実な三人の青年たちと共におられたように、あなたのかたわらにおられる。贖い主を愛する者は、主と共に屈辱とそしりに会う機会があるたびに喜ぶ。彼らは、主を愛しているので、主のための苦しみを少しもいとわないのである。

すべての時代にわたって、サタンは神の民を迫害してきた。サタンは彼らを拷問にかけ、死に至らせた。しかし彼らは死ぬことによって勝利者となった。彼らは、その不屈の信仰によって、サタンよりも強いお方をあらわした。サタンは彼らを責め、肉体を殺すことはできた。しかしキリストと共に神のうちにかくれている命に触れることはできなかった。サタンは牢獄の中に幽閉することはできたが、その魂をしばることはできなかった。彼らは「わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない」、……と叫びながら、暗黒のかなたに栄光を見ることができた。

世に憎まれ、迫害される神の教会は、キリストの学校において教育され、訓練を受ける。彼らは地上の狭い道を歩き、苦難の炉で精錬される。彼らは激しい戦いの中にあってもキリストに従う。彼らは自己を犠牲にし、にがい失望を経験する。しかし彼らの苦しい経験は、罪の結果とその苦悩を教えるのである。そして、彼らは嫌悪の情をもってそれを見るのである。キリストの苦難にあずかる彼らは、キリストの栄光にあずかる者とされるのである。聖なる幻の中に預言者は神の民の勝利を見た。「またわたしは、火のまじったガラスの海のようなものを見た。そして、このガラスの海のそばに、……勝った人々が、神の立琴を手にして立っているのを見た。彼らは、神の僕モーセの歌と、小羊の歌とを歌う。(祝福の山 36-38)

自然の教訓を熟考すべき

「また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。」(マタイ 6:28)

自然科学はキリストの学校で学ぶ生徒がみな取り出すことのできる倉である。自然哲学における神の方法と人に対する神の取り扱いに関連した神秘はすべての者が取り出すことのできる宝庫である。(原稿 95, 1898 年)

数えきれないほどの種類に富む野の花は常に人の子らの喜びに奉仕している。神はご自分のみ手の業によって和らげられ、穏やかにされるすべての者への愛を表わすことができるようにと、あらゆる根を養われる。わたしたちは人工的な装飾を必要とはしない。神の愛はその創造物の美しい物によってあらわされている。(手紙 84, 1900 年)

キリストは弟子たちの注意を人工的なものから離して、自然へ引きつけようとした。「きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はどのように装ってくださるのなら、あなたがたに、それ以上良くてくださらないはずがあらうか。ああ信仰の薄い者たちよ。」天父はなぜ地上を茶色や灰色で覆われなかったのであろうか。このお方は感覚に最も安らぎを与え、最も好ましい色を選ばれた。生き生きとした緑の装いで覆われた地を見るのは、なんと心を楽しませ、疲れた精神をさわやかにすることであらうか。これがなければ空中はちりで満たされ、地は砂漠のように見えるであらう。草の若芽の一つ一つ、開こうとしているつぼみの一つ一つ、咲いている花一輪一輪が神の愛のしるしであり、わたしたちに神への信仰と信頼についての教訓を教えている。キリストはわたしたちの注意をこれらの自然の美しさに向け、かつて地上で権力をふるった最も偉大な王のこの上なく豪華な衣装も、最も慎ましい草花の装いほどではないとわたしたちに保証しておられる。高価な絵画や家具、衣服といった富裕階級だけが持つことのできる人工的な豪華さを求めてため息をついているあなた、神なる教師のみ声に耳を傾けなさい。このお方は、人間の技巧では匹敵できない、単純なデザインの野の花をあなたにさし示される。(ビュー・アッド・ヘルト 1885 年 10 月 27 日)

キリストの安息に入る

「こういうわけで、安息日の休みが、神の民のためにまだ残されているのである。」
(ヘブル 4:9)

もしあなたがキリストの学校で心の柔和とへりくだりを学びたいと思っているのであれば、主は必ずあなたに安息と平安を与えて下さる。あなた自身の意志と方法をあきらめるのは非常に厳しい戦いである。しかしこの教訓を学ぶなら、あなたは安息と平安を見出す。自尊心や利己心、野心は克服しなければならない。あなたの意志はキリストの意志に飲み込まれなければならない。全生涯がたえず一つの愛の捧げ物となり、あらゆる行動が愛を表わし、あらゆる言葉が愛の言葉となることができる。ぶどうの生命が幹と房をめぐるように、より低い繊維に降り、一番高い葉に届くように、キリストの恵みと愛はその徳を心身のすみずみにまで送りつつ、心身のあらゆる行為に行き渡りつつ、魂のうちに燃え、満ちる。(手紙 14, 1887 年)

キリストがご自身の生命を与えられたその偉大な働きの中で、キリストとの共労者になることによって、わたしたちは真の安息を見出す。わたしたちが罪人であったとき、このお方はわたしたちのためにご自分の生命を捧げられた。このお方はわたしたちがご自分の所に来て、ご自分のことを学ぶことを望んでおられる。このようにしてわたしたちは安息を見出すべきである。キリストはわたしたちに安息を与えると仰せになる。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから……わたしに学びなさい。」こうすることによってあなたはキリストがお与えになる休み、この方のくびきを負い、このお方の荷を背負うことによる安息を、あなた自身の経験の中で見出す。(世界総会冊子 1901 年 4 月 4 日)

力のない信心の形は疲れるものであり重荷である。しかし心からキリストの奉仕に参加するとき、魂に休みがある。なぜなら神は暗黒の勢力に日々勝利をもたらされるからである。神は、自分の魂を忠実な創造主である主に委ねる者を助けられるからである。(ユース・インストラクター 1893 年 6 月 22 日)

キリストがお教えになる教訓を学ぶということは、生徒が見出すことのできる最大の宝である。彼らが主を喜ばせようとする意識の中に、安息がおとずれる。(手紙 144, 1901 年)

神に寄り頼む

「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ 15:5 下句)

学ぶべき初めの教訓……は神に寄り頼むという教訓である。野の花が土の中に根をはっているように、空気や露、雨、また日光を受けなければならないように、わたしたちは魂の生命を支えるものを神から受けなければならない。(教会への証 7 卷 194)

神のご臨在がクリスチャンに保証されている。この信仰の岩は神の生けるご臨在である。最も弱い者もご臨在に寄り頼むことができる。自分を最も強いと思う者は、自分の力としてまた価値としてキリストに寄り頼まないかぎり、最も弱い者となる。これこそわたしたちが首尾よくその上に建てることのできる岩なる方である。神はキリストの贖いの犠牲のうちに、その仲保のうちに、教会に及ばずその麗しく愛情のこもったご支配のなかに近くおられる。永遠のみ座に座られ、神は強い関心をもって教会員を眺めておられる。教会員が信仰を通してイエス・キリストから活力と栄養を吸い、人の意見や工夫、方法に頼らないかぎり、またキリストにある神との緊密さを確信するなら、彼らはキリストに完全な信頼を置き、枝が親木の幹とつながっているように、キリストとの生きたつながりをもつ。教会は人間の理論や、長々とした計画や形式の上に設立されるのではない。教会はキリストを自分たちの義として寄り頼むのである。教会は「黄泉の力もそれに打ち勝つことはない」キリストのうちにある信仰の上に建てられるのである。……

あらゆる魂の力は神のうちにあるのであって、人間のうちにはない。平穏と確信が、自分の心を神に捧げるすべての者の力とならなければならない。キリストはわたしたちに表面的な関心をもっておられるのではなく、母親が子供に関心を持つ以上の強い関心をもっておられる。……わたしたちの救い主は、人間としての苦しみや悲しみによって、また侮辱や非難、ののしりや嘲り、拒絶と死によって、わたしたちを買い戻された。このお方は神のおののいている子であるあなたを見守っておられる。あなたをご自分の保護のもとに守られる。……人間としてのわたしたちの弱さは天父へわたしたちが近づくのを妨げはしない。(キリスト) がわたしたちのために仲保をなさるために死なれたからである。(原稿 15, 1897 年)

わたしたちの思いを キリストに集中するために

「心の深みまで新たにされて」(エペソ 4:23)

今日の若者は気高く聖なる目的を成就するために教育を受けることができる。……彼らは日々神なる主についての教訓を学んでいるキリストの学校の生徒である。(ユース・インストラクター 1894 年 10 月 25 日)

愛情が最も熱烈で、最も記憶力があり、神の教えに対して最も感受性のある時期は若い時である。そして大いなる向上が現世と来世の見地からなされるために、精神力と体力がその仕事にとりかからなければならないのも若い時である。

青年男女が得ることのできる貴重な知識の総量が正しく評価されていない。しかし高い標準に達するためには、彼らはサタンが思いに押し込もうとしている、品性を卑しくする考えに対して扉を閉ざして、サタンの誘惑に屈することを拒まなければならない。若い人々は、金で買うことのできないものを、すべての者がそうあるようにと神が計画されたことを、心がけつつ純粹で強い目的を心に抱きつづけることによって得ることができる。心を正しい思想が宿るよう訓練しなければならない。青年は聖書を研究し、神が自分たちを導くために定められた神の規則を日毎の生活の中に持ちこむべきである。神への奉仕に長い経験をしてきた人は自分の身に起こっている事柄に関して自分の思いが白紙であるかもしれない。今しがたの対応は記憶からまもなく消えるかもしれない。しかしその人の思いの中に、子供時代の光景や対応はみな記憶がある。ああ、墮落した考えから思いを純粹にまた清く守り、魂をすべての品位を落す行為から保護することがどれほど大切であるかを、若い人々が気づくと良いのだが。青年の純潔と不純は老年に反映するからである。(ユース・インストラクター 1894 年 10 月 25 日)

聖書の真理が受け入れられると、心は世俗と墮落から高められる。もし神の言葉が正当に評価されるなら、老いも若きも共に、誘惑を退けることのできる原則の力、心の正しさを持つであろう。(家庭の教育 551)

誘惑に抵抗するために

「そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。」(ヤコブ 4:7)

サタンはまだ誘惑を携えて、人の子らの所へ来る。彼は自分を視界から隠すために、自分が見えるあらゆる方法を用いるので、これが、非常に多くの人々がその策略に無知な理由である。「あなたは個人的な悪魔を信じますか」という質問をされた二、三日後、「私は信じます」という答えをした。「そうですか」とその質問者は言った、「私はそのようなものがあるとは思いません。わたしたちの悪い考えや衝動がわたしたちの知っている悪魔のすべてです。」「でも、誰がそのような考えを暗示するのですか。サタンからでなければその考えは何処から起こりますか」と私は尋ねた。……

わたしたちに個人的な救い主がおられるのと同じくらい確かに、わたしたちの歩みを見張り迷わせようとたくらむ個人的な敵、残酷で悪賢い敵がいる。彼は変装により最も効果的に働くことができる。サタンが存在しないという意見を受け入れるところではどこでも、サタンは最も忙しいのである。わたしたちがサタンの存在を少しも感じなければ、彼はわたしたちに対して優位に立つ。非常に多くの青年が知らないでサタンの力に屈服しているのを見ると、私は危機感を感じる。彼らが自分たちの危険を知ったなら、罪人の避難所であるキリストへ避難するであろうに。(ユース・インストラクター 1883 年 11 月 21 日)

あなたの生涯を聖なる型である方に従わせることを日々学びつつ、キリストの学校における忠実な生徒であるよう目ざしなさい。あなたの顔を天の方へ向けて、目標を目指して走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めなさい。クリスチャンの競争を耐え忍んで走りなさい。そしてあらゆる誘惑を克服しなさい。その誘惑は耐え難いものであってもあなたの所に来る。悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば彼はあなたがたから逃げ去るであろう。神に近づきなさい。そしてあなたが上へ向かう第一歩を踏み出そうと強く望むなら、神のみ手があなたを助けようと差し出されているのを見出すであろう。あなたが義の太陽の光のうちを歩むか誤謬という暗闇の中を歩むかは、個人的にあなたにかかっている。神の真理は、あなたがその感化力に自分の魂を清め、精錬することを許す時だけ、あなたにとって祝福となることができる。(ユース・インストラクター 1895 年 5 月 30 日)

愛情に満ち、親切であるべき

「兄弟愛を続けなさい。」(ヘブル 13:1)

家庭内ではだれも自分自身のからに閉じこもることはできない。……

もし人がキリストの愛に満たされているなら、その人は礼儀正しく親切で、他人の感情に敏感であり、愛の行為によって優しく感謝の念をもった、幸せな気持ちで同胞と交わる。その人がイエスのために生きており、このお方の光と平安を受けつつその足元で教訓を日毎に学んでいることが明らかにされる。(ユース・インストラクター 1893 年 6 月 22 日)

外見的な礼儀作法をどんなに用意周到に習得しても、それらは、焦燥、荒々しい批評、聞き苦しい言葉などをすべてなくすのに十分ではない。自我が最高の地位を占めている間は真の礼儀は決してあらわれない。真の愛が心に宿らなければならない。純粋なクリスチャンは主に対する深い愛に基づいて行動する。キリストに対する愛の根源から、兄弟に対する無私の関心が芽ばえる。

人が求め、心に抱き、身につけてゆくすべての事の中で、純真な心、感謝と平和につつまれた気質ほどに神の御目に価値あるものと見られるものはない。

もし真理と愛の神聖な調和が心の中にあるならば、それはことばや行動の中に輝き出でよう。……本当の慈悲の精神は心の中に宿っていなければならない。愛はそれをもっている人に、上品さや礼儀正しさや優雅な態度を与える。愛は顔を明るくし、声を和らげる。またその人全体を優雅にし高尚にする。愛はまた彼を神と調和させてくれる。なぜなら愛は天国に所属する特質だからである。(ドベンチスト・ホーム四八四)

心の中にも、家の中にも利己心が見られないようにしよう。……わたしたちがみな天の王室の家族であるなら、家庭生活には真の礼儀正しさが見られるはずである。家族のひとりびとりが互いに家庭を楽しいものにしようと努めるはずである。(家庭の教育 138)

へりくだり

「しかし神は、いや増しに恵みを賜う。であるから、『神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う』とある。」(ヤコブ 4:6)

あなたは完全な屈服と服従をもって自分自身をキリストに結びつける時にのみ安全である。くびきはたやすい。なぜならキリストがその重荷をになって下さるからである。あなたが十字架という重荷を持ち上げるとき、その荷は軽くなり、十字架はあなたにとって永遠の命についての誓約となる。「あなたの助けはわたしを大いなる者とされました」と一歩ごとに叫びながら、喜びつつキリストの後に従うのは一人一人の特権である。しかしわたしたちが天へ向かって旅をしたいのであれば、神のみ言葉を自分の教科書としなければならない。靈感の言葉の中に毎日の教訓を読み取らなければならない。……

人としてのキリスト・イエスのへりくだりが人間の思いでは理解できない。しかし世界が形造られる前に存在しておられることとその神性は、神のみ言葉を信じる者にとって疑う余地はない。使徒パウロはわたしたちの仲保者について、神のひとり子であって、栄光に満ちた身分であり、神のかたちであって、全天軍の司令官であり、ご自分の神性に人性をまとわれたとき、僕のかたちをとられたと語っている。……

人間となることに同意されて、キリストは天の住民にとって信じられないほどの驚きであるへりくだりを示された。キリストの先在という事実がなければ、人となることに對して同意されたことは、謙遜の行いにはならなかったであろう。わたしたちは、キリストがご自分の王衣、王冠、最高指揮権を捨てて、人間のいる所で人に会い、人類家族が神の息子、娘になる力をもたらすために、ご自分の神性に人性をまとわれたことを悟るために、わたしたちの理解力を啓発しなければならない。人を贖うためにキリストは死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。(ユス・インストラクター 1898 年 10 月 13 日)

キリストの生涯を特徴づけた柔和とへりくだりは「彼が歩かれたように歩く」人々の生涯と品性のうちにあらわされる。(ユス・インストラクター 1894 年 11 月 8 日)

柔和

「へりくだる者を公義に導き、へりくだる者にその道を教えられる。」(詩篇 25:9)

あなたは、人は神の御目にどのような者であるべきかという重要な教訓を学ばなければならない。それはイエスのように柔和で心のへりくだった者であり、あなた自身よりも他の人々の関心について、もっと聖なる注意を払うということである。……あなたがキリストの学校での怠ける者であったり、やる気のない学生ではないことをあなたの日常生活と行動の中で示すべきである。(手紙 16, 1886 年)

利己心はキリストが内住される心には存在できない。もし利己心を心に抱くなら、その他のものをすべて閉め出してしまう。これは自分という者を考えの中心とし、他の人々に祝福となるよう努める代りに自分自身を喜ばせ、甘やかせるために、義務よりはむしろ生来の傾向に従うようあなたを導く。あなたの欲望や楽しみが他のあらゆることに先立つ。……真の幸福は自己放縦や自己満足ではなく、キリストについて学ぶことの中で見出すべきである。……自分自身の知恵を信頼し、自分自身のやり方に従う人々は、一步ごとに不満をつぶやく。なぜなら利己心が彼らを縛る重荷はとても重いからである。……

イエスは若い人々を愛しておられ、ご自分だけが分け与えることのできる平安を彼らが持つことを切望される。このお方は彼らにご自分の柔和と心のへりくだりを学ぶようにと命じられる。この尊い恵みがクリスチャンであると公言する人々のうちにすら、現代の若者のうちにめったに見られない。彼らの目には自分自身のやり方が正しいように見えるのである。彼らはキリストのみ名は受け入れるが、そのご品性は受け入れない。……それゆえ彼らはキリストの奉仕のうちに見出される喜びと平安について何も知らないのである。(ユース・インストラクター 1883 年 11 月 21 日)

家庭の中にキリストの柔和があらわされると、家族は幸福になる。それは争いをひきおこさず、怒った返答をさせない。いらだった感情を柔かくし、やさしさがしみわたって、そのたのしい囲いの中にいるすべての者にそれが感じられる。柔和のあるところはどこでも、地上の家族を天の一大家族の一部とするのである。(祝福の山 20)

思慮深さ

「だから、あなたがたは、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者であるから、あわれみの心、慈愛、謙そん、柔和、寛容を身に着けなさい。」(コロサイ 3:12)

イエスをあなたの導き手、型としてよく見なさい。……どのようにすればこの方のように、他の人々に対して思慮深く、柔和で謙遜な者になることができるか研究しなさい。このようにしてあなたは「あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達する」ことができる。あなたはこのお方のかたちを反映し、再臨の時にはこのお方のものとして受け入れていただける。(ユース・インストラクター 1883 年 12 月 5 日)

信仰を通してキリストを理解するとき、その信仰がまた魂の奥にまで入るとき、聖霊は品性をキリストに似たものに形造る。そのとき教訓がキリストの学校で日々学ばれる。木の性質はその実によって分かる。「あなたがたはその実によって彼らを見分けるであろう。」クリスチャンは世の道徳的暗闇のただ中で光のように輝く。彼は心優しく、他の人々の感情を思いやる。神のみ言葉は「へびのように賢く、はとのように素直であれ」とわたしたちに教える。そして自分自身を聖書の原則による統制のもとにおくのはあらゆるクリスチャンの義務である。それは人が「恥じるところのない練達した働き人」となることができるためである。これを行なう人々の手になる働きは永遠に続く。その働きには一片の利己心も混じることはなく、ずさんで不注意な働きでもない。(ユース・インストラクター 1894 年 9 月 20 日)

どんな時にも夫と妻や、親と子や、兄弟姉妹の間にやさしい愛情を育てなければならない。軽率なことばはすべて押えなければならない。互いに愛情のない表情をすることさえあつてはならない。快活であること、やさしく話すことは、家族ひとりびとりの義務である。

やさしさや愛情深さや愛を育てて、ちょっとした親切の中に、ことばの中に、思いやり深い配慮の中にそれを表わさなければならない。(アドベンチスト・ホー 214)

神が尊ばれるものは、聖霊が与える美徳、やさしい言葉、人に対するあたたかい思いやりである。(家庭の教育 462)

自制心

「わたしはまた、神に対しまた人に対して、良心に責められることのないように、常に努めています。」(使徒行伝 24:16)

品性の持つ力には二つの要素がある。意志の力と自制の力である。多くの青年たちは、抑制されない激しい感情を、品性の強さだと勘違いしている。しかし実際には、感情によって支配される人は弱い人である。人間の真の偉大さや気高さは、自分を支配する感情の力によってではなく、自分の感情を押さえる力によって測られる。(家庭の教育 158)

わたしたちは自制を失ってはならない。つねに完全な模範であるおかたを見上げよう。気短かに、いらいらした調子で話したり、たとえ言葉に出さなくとも心の中で怒ったりすることは罪である。わたしたちはキリストを正しく代表するものとして、立派に歩まなければならない。怒りの言葉を口に出すことは、火打ち石でもう一つの火打ち石を打つようなもので、すぐに激しい怒りの気持ちを燃えさせたせるものである。

決して栗のいがのようになってはいけな。家庭でとげとげしい、いら立った言葉を口から出してはならない。あなたは天来の客であるイエスをお迎えすると同時に、そこを主とみ使いたちが、一緒に住むことができるような家としなければならない。周囲の人々に、いのちの光であるイエスを表わすことができるように、キリストの義、神の霊のきよめ、聖なる美を受けよう。……

名高い一人の皇帝は臨終の床で、「わたしがしたすべての征服の中で今わたしに慰めとなるものがあるとすれば、それはただ一つ、自分の狂暴な気性を征服したことである」と言った。アレキサンダーやシーザーは、自己を征服するよりも世界を征服するほうがはるかにたやすいことを知った。次々に世界の国々を征服して、彼らは倒れたのである。その一人は「不節制の犠牲となり、もう一人は向こうみずな野心の犠牲となって」倒れたのである。(家庭の教育 86, 87)

クリスチャンのうちにある高貴なものについて最高の証拠は自制心である。(各時代の希望中巻 6)

主のみ働きの中で、あなたは自制心、清められた品位、礼儀正しい態度とふるまいについての教訓を学ぶことのできる学校にいつもいるのである。(手紙 174a、1902 年)

純潔

「彼は罪のない者を救われる。あなたはその手の潔いことによって、救われるであろう。」(ヨブ 22:30)

キリストのようであるという意味のクリスチャンという名を名乗るにふさわしい人は敬神と純潔、また神と、神が送られたイエス・キリストに対する愛と崇敬の念に満たされている。そして、その人の精神、言葉また行動はみな天のしるしを帯びている。他の人々は彼がイエスと共におり、この方に学んだ者であることを知る。彼の祈りは簡潔で誠意がこもっており、信仰の翼ののって神のもとへ上っていく。キリストの学校で学ぶことにより、自分自身については謙遜な考えを持つ。そして、世的な益には乏しいけれども、神のみ霊の恵みには豊かであり、その精神と感化力によって他の人々を祝福し富ませることができる。彼にとって、キリストが永遠の生命がわきあがる水の井戸となられるからである。彼は自分の周りに希望と勇気と力強さの雰囲気をかもし出し、生きているというのは名だけで、実は死んでいる世的で利己的な形式的な自称クリスチャンを恥じいらせる。(ユース・インストラクター 1893 年 6 月 22 日)

神によって感動を受けた、尊い信仰は力と高尚な品性を与える。神の恵みとあわれみと愛を瞑想するとき、真理はいよいよ鮮明に理解され、心の純潔と思想の明瞭を望む気持ちはさらに高まり、きよめられる。きよい思想の純潔な雰囲気にある魂は神のみ言葉を研究し、神と交わり、それによって変化する。真理は非常に大きく、かつ遠大で深く、広く、自分が見えなくなるほどである。心は和らげられ、柔和になり、謙遜で愛を持つようになる。……心がきよくなり強くなる。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 449)

清い心と美しい霊は、現世においても来世においても共に金よりも尊いものです。心の清い者だけが神を見るのです。(家庭の教育 4449)

単純さ

「ただ恐れるのは、エバがヘビの悪巧みで誘惑されたように、あなたがたの思いが汚されて、キリストのうちにある単純さを失いはしないかということである。」(コリント第二 11:3 欽定訳)

食欲を抑え、情欲を自制しつつ、自分の習慣すべてに単純さを保つ人は、自分の精神力を力強く、活発で強健に保ち、思考や行動を要するあらゆることを理解するのにすばやく、聖なることと汚れたことを鋭く区別し、神の栄光と人類の益のためのあらゆる企画に従事する準備ができている。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1881年9月29日)

子供たちは、子供らしい単純さの中に教育されなければならない。人の役に立つ小さな義務をつくすことや、その年ごろにふさわしい楽しみや経験を持つことに満足するように、彼らを教育しなければならない。子供時代は、たとえの中の芽に相当するが、芽にはそれ自体の特有の美しさがある。子供たちに年令に不似合いな成熟をしいることなく、できるだけいつまでも幼いころの清らかさと美しさを持ちつづけさせなければならない。子供の生活が、静かな単純なものであればあるほど、すなわち、不自然な刺激から離れて自然との調和の中にあればあるほど、その知力、体力、また霊的な力は順調に発達する。

親は子供たちが単純な習慣を身につけるよう、模範を示さなくてはならない。そして子供たちが不自然な生活を離れて自然な生活をするよう、導かねばならない。自然でありのままの子供がいちばん、人を引きつけるものである。(家庭の教育 133, 134)

世がかつて知った中で最も偉大な教師はその単純さのゆえに感嘆された。なぜならこのお方は、子供ですらそのみ言葉を悟ることができ、それと同時に、世の最高の教育を受け、深く思索する人々の注意をも引きつける方法で神の真理を提供されたからである。このお方は真理を、一般の人々の心に、親しみ深い実例を用いて明らかにされた。聞く人々の思いと心の中に福音の真理の種を単純さのうちに播かれたが、その種は芽を出し、永遠の生命に至る収穫をもたらしたのである。(ユース・インストラクター 1893年5月4日)

この方の〔キリストの〕栄光はその単純さのうちにある。(健康への勧告 320)

堅固

「そうすれば、あなたは恥じることなく、顔をあげることができ、堅く立って、恐れることはない。」(ヨブ 11:15)

青年が知的能力を最高度に発育させなければならないと考えるのは正しいことで、神が制限しておられない教育をわたしたちも制限しない。しかし、わたしたちが学び得たところを神のほまれと人類の利益のために用いなければならない。……

必要なのは頭脳と心を強くする知識、わたしたちを一段とりつばな男女とする知識である。心の教育は単なる教科書の勉強よりもはるかに重要である。わたしたちが生存している世界を知ることは良いことであり、重要なことであるが、もし永遠のことを全然忘れてしまうなら、取り返しのつかぬ失敗をする。……青年が自分の弱さを悟るならば、力の源泉は神にあることを見いだす。(ミストリー・オブ・ヒーリング 431, 432)

精通していなければならないキリスト教の科学がある。それは天が地よりも高いように、どんな人間の科学よりも、はるかに深く、広く、高い学問である。わたしたちは生来の性癖に調和しない方法で神に仕えなければならず、そのため、精神を鍛え、教育を施し、訓練しなければならないからである。悪に対する遺伝的あるいは後天的な性癖を征服しなければならない。キリストの学校の生徒となるために今までの教育や訓練を放棄しなければならぬこともよくある。わたしたちの心は教育され、神に堅く立つようにされなければならない。誘惑に抵抗し得られるだけの思考の習慣を形成すべきであって、上を見ることを学ばなければならない。神のみ言葉の原則、すなわち、天のように高い、永遠に至る原則がわたしたちの日常生活にいかなる意義をもつかを悟るべきであって、すべての行動、言語、思想がこの原則に一致しなければならない。すべてのことがキリストと調和し、キリストに服従していなければならない。(ミストリー・オブ・ヒーリング 435, 436)

忍耐

「神の御旨を行なって約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。」(ヘブル 10:36)

ある人々の生涯は自己の領域から決して出ないので、平安と喜びがない。彼らはたえず他の人々の同情を得ようと手を伸ばしている。もしも彼らがどれほど役立てるかを知るために働きにたずさわり、愛と励ましの言葉を語るなら、今は乾いて衰えなその魂も、よく潤った園のようになるであろう。

あなたはキリストの学校で忍耐という尊い教訓を学ばなければならない。失望しないであらゆることにへりくだって働き続けなさい。そうすることによりあなたはイエスの方へ連れて行かれる。あなたが型であるお方を研究するよう導く。あなたはイエスが働かれたように働きたいと願う。(ユース・インストラクター-1886年5月4日)

なるほど試練はまったく献身した人々にものぞむであろう。最もがまん強い人の忍耐が激しく試みられるであろう。……しばしば沈黙はくちびるで罪をおかした人に与えることのできる最も激しい非難となる。

子供たちや青年たちが自己抑制の気持ちを失って、激しいことばをしゃべるときに、しばしば叱責や討論や非難といったことをせずに、沈黙の態度をとることが最もよい方法である。間もなく後悔するようになる。金のような沈黙が、人の口にするすべてのことばよりも、もっと役立つことがときどきある。

他人が自己をおさえることができずに、短気でいらいらして不平を言っているときには、何かシオンの歌を歌い始めなさい。キリストが大工の仕事場でお働きになっていた間に、他の人間は時折主を取り囲んで、いらいらさせようと試みた。しかし主はある美しい詩篇の歌をうたい始められたので、彼らは知らず知らずいっしょに唱和した。それは、いわば、そこに臨在する聖霊の力に感化されたのであった。(アドベンチスト・ホーム 505, 506)

人は自分の息子や娘を神の息子、娘になるように教育することができる。そのために、キリストの完全な模範と神の恵みが与えられているのである。(家庭の教育 514)

自制

「ごらんさい。わたしたちはいっさいを捨てて、あなたに従って参りました。」(マ
ルコ 10:28)

すべての者には、キリストの子としての義務を理解することができるよう、
キリストの学校で学ばねばならない教訓、得なければならない日毎の経験があ
る。

正直で善意に満ちた多くの人はクリスチャンとしての生涯で向上しない。それ
はその人がたえずイエスについてもっと学ぶ必要に気づかないからである。初め
に改心したとき、彼は主の側に立ったことを喜ぶ。一年後彼は同じ証をになう。
そこに霊的成長の証拠はない。この人はまだ子供のように弱いのである。……改
心についての初めの経験は幸福な喜ばしいものである。がしかし試練は来る。人
生における困惑に出会わなければならない。抑制していなかった品性の罪深い
傾向が支配権を得ようとし、非常にしばしば支配権を得てしまう。そうすると確
信や平安を失って、祈りや聖書を読むことを怠るようになる。自分が持たなけ
ればならない知識や経験に欠けているために、多くの人はサタンに打ち負かさ
れてしまう。誘惑をどのように見分け、どのように抵抗すればよいかが分からないの
である。……

あなたの助け主としてイエスを信じる信仰を持ちなさい。あなたが自分の働き
を選び自分自身のやり方に従うのではなく、イエスをあなたの導き手、また型とし
て見上げなければならないことを覚えなさい。このお方の模範をあなたの目の前
に置き、御目に喜ばれることが何であるかをたえず尋ね続けなさい。このお方
から、自制と自己犠牲についての教訓を学びなさい。(ユース・インストラクター 1883 年 12
月 5 日)

あなたの思いを衣服に置いて、あなたの心に自尊心を住まわせる代りに、神
に思いを置き続けて、毎瞬間見張っていなさい。自制しようと努めなさい。清く
ありなさい。天国について思い続けなさい。そしてあなたの会話も天についてで
あるようにしなさい。……キリストに従う者は苦難や自制を選び、この世でキリス
トの是認を得、……来る世で栄光と不死と永遠の生命を持つのである。(ユース・イ
ンストラクター 1854 年 5 月)

許し

「互に忍びあい、もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい。主もあなたがたをゆるして下さったのだから、そのように、あなたがたもゆるし合いなさい。」
(コロサイ 3:13)

イエス・キリストの宗教は進歩を意味する。これはより聖なるより気高い標準へとたえず上っていくことを意味する。心が救い主の品性の麗しさにふれているクリスチャンは、自分がキリストの学校で学ぶことを実践に移すべきである。わたしたちは、キリストが日々教えてくださることをいつも学ぼうとする態度で、キリストの学校にふさわしい生徒でなければならない。(ユース・インストラクター 1894 年 9 月 13 日)

わたしたちは神のみ声を聞き、その勧告に従わなければ、品性の完全に到達することはできない。この教えは兄弟に対して反感を引き起こすような試練に会ったことのない人々に適用するのではなく、傷つき、金銭的な不正に苦しみ、非難や批判にさらされ、誤解や誤った判断を受けている人々に適用される。このような人々は心に憎しみが入るのを許したり、自分を傷つけた人々を見るとき思いやりのない感情のおきるがままにしたりしてはならない。……

わたしたちはキリストのように敵を許し、わたしたちを憎んでいる者に対して、その魂を愛していることをあらわす機会を待ち構え、機会を得たなら、その人々に善を施すのである。……もし、わたしたちを傷つけた人々が悪い行いをし続けるなら……聖書の計画に従って、キリストご自身が教えられたように、兄弟と和解するよう努力しなければならない。もし兄弟が和解するのを拒むなら、そのときにはその人について話したり、その影響力に傷をつけたりするのではなく、すべての人を正しく判断される公正な神のみ手に彼らを委ねなさい。……若い人々は、神の働きに対して大いなる愛を持っていると公言するかもしれないが、同胞と和解しない間は神と和解していないのである。神の祝福をわたしたちの心や家庭から閉め出しているのは、これらの……利己的な感情を心に抱いているからである。キリストの愛を心の中に流れこませ、品性を改変していただこう。そうであればわたしたちは神の子ではない。(ユース・インストラクター 1898 年 1 月 13 日)

改心のもととなったペテロのふるい

「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ 22:31, 32)

キリストの弟子であると公言する非常に多くの者が激しい誘惑に陥る原因は、自分自身についての正しい知識を持っていないからである。これが、ペテロが敵にそれほどまでも徹底的にふるわれたところである。わたしたちが自分の弱さを悟ることができるなら、自分自身のためにすべきことが非常にたくさんあることが分かるので、自分の心を神の力強いみ手のもとにへりくだらせるのだが。自分の無力な魂をキリストにあずけることによって、わたしたちはキリストの知恵で自分の無知を補い、この方の強さで自分の弱さを、この方の忍耐強い力で自分のもろさを補う。ペテロは自分自身の誘惑されやすいことを知らず、自分は強いと考えた。……

ペテロが自己をキリストの内に隠しつつ、神と共にへりくだって歩いていたなら、熱心に神の助けを求めていたなら、それほど自信を持たず、そして主の教えを受け入れそれを実践していたなら、彼は用心して祈っていたであろうに。……彼が自分自身を綿密に探っていれば、主は彼に神の助けをお与えになったので、サタンのふるいは必要なかったのである。……サタンの全勢力にも、神からくる知恵に単純に信頼して任せる魂を無能力にする力はない。(ユース・インストラクター 1898 年 12 月 15 日)

ペテロのためのキリストの心配りがペテロを回復させたのであった。サタンはキリストの全力を込めた仲保に敵対して何もすることができなかった。そしてキリストがペテロのためにされた祈りを、このお方はへりくだって心に悔恨しているすべての者のためにされる。……ペテロは光と知識に対して罪を犯し、偉大で高貴な特権に対して罪を犯した。彼がつまり原因となったのは自信であった。そして現在人間の心の中で働いているのもこの同じ悪である。正しい者であり正しいことをするというのは、わたしたちの目的であり得るが、キリストの学校で絶えず学んでいないかぎりほとんど確実に過ちを犯す。わたしたちの唯一の安全は神と共にへりくだって歩くことにある。(ユース・インストラクター 1898 年 12 月 15 日)

ラザロは神の栄光を証するためによみがえった

「イエスはそれを聞いて言われた、「この病気は死ぬほどのものではない。それは神の栄光のため、また、神の子がそれによって栄光を受けるためのものである。」」(ヨハネ 11:4)

ラザロが病気であると聞いて後、二日間キリストが遅れたのはご自分の本分を怠ったのでは拒絶されたのではなかった。……これはわたしたちにとって励ましとならなければならない。……わたしたちは主にあって安息を得るべきであり、この方を忍耐強く待たなければならない。わたしたちの祈りに対する答えは、わたしたちが願うほどすばやく来るとは限らず、またわたしたちが願ったその通りになるとも限らない。しかしご自分の子らにとって何が最善であるかを知っておられるお方は、わたしたちが信仰を失ったり、失望してしまわなければ、わたしたちが求めるよりもはるかに良いものを与えて下さる。(ユース・インストラクター-1899年4月6日)

キリストはベタニアの愛する者たちのことだけを考えるのではなく、弟子たちの訓練も考慮しなければならなかった。み父の祝福がすべての人をおおうことができるように、弟子たちは世に向けて天父を代表する者とならなければならない。彼らのためにキリストはラザロが死ぬことを許された。キリストがラザロを病気から健康へ回復されたなら、キリストの神性についての最も明確な証拠である奇跡が行なわれなかったのである。

キリストが病室におられたなら、ラザロは死ぬことはなかった。なぜならサタンはキリストに打ち勝つ力はなかったからである。生命の与え主の臨在のもとでは、死はラザロに死の矢を撃つことはできなかったであろう。……キリストはラザロが死の支配のもとに下るのを許されたので、悲しんでいた姉妹は兄弟が墓に横たえられるのを見た。二人が亡くなった兄弟の顔を見るときに、贖い主への信仰が激しく試みられることをキリストは知っておられた。このようにしてこのお方は二人がもっと多くの実をつけるようと枝を刈り込まれたのである。二人が今経験している戦いのゆえに、彼らの信仰は、はるかに大きな力で輝き出ることをキリストは知っておられた。(ユース・インストラクター-1899年4月13日)

神のみちびきのみ手を求めて手をさしのべているすべての者にとって、最も落胆している時が、神の助けが一番近い時である。……誘惑のたびに、試みのたびに、主はそこから彼らを、もっと固い信仰、もっと豊かな経験をもって、みちびき出される。(各時代の希望中巻 343)

報いられたエリシャの忠誠

「さてエリヤはそこを去って行って、シャパテの子エリシャに会った。彼は十二くびきの牛を前に行かせ、自分は十二番目のくびきと共にいて耕していた。エリヤは彼のかたわらを通り過ぎて外套を彼の上にかけた。」(列王記上 19:19)

預言者エリヤは地上での自分の仕事をほとんど終えようとしていた。他の者がその時代のための働きを前進させるために召されねばならなかった。旅の途中でエリヤは北へ向かうよう指示された。……エリヤが見渡したどの土地も、一人の人すなわちバアルにひざまずかず、心が神への奉仕に二心のない人の持ち物であった。……その土地の持主はシャパテであった。……

エリヤの注意は、シャパテの息子エリシャに向けられた。エリシャは召使いを伴って、十二くびきの雄牛と共に耕していた。エリシャは教育者であり、管理者であり、労働者であって、人口の密集した町に住んではいなかった。彼の父親は土地を耕作する者、農夫であった。町と宮廷の遊興から遠く離れて、エリシャは自分に必要な教育を受けていた。単純さの習慣、また両親と神に対する服従についての訓練を受けていた。……しかし柔和で物静かな精神を持っている反面、エリシャは安定した品性の持主であった。彼の品性は高潔と忠実、そして神を畏れ神を愛するものであった。彼は支配者の特性を持っていたが、それと共に仕える人の柔和も備えていた。エリシャの思いは、なすべきことは何であつても忠実であるようにと、ささいな事柄で訓練を受けていた。そのため神がご自分のためにもっと直接に行動するようにと彼を召されれば、そのみ声に聞き従う備えができていたのである。

エリシャの家庭環境は富裕な環境であった。しかし彼は多方面にわたった教育を受けるために、果たす必要のある仕事には何であつてもたえず取り組まなければならないことに気づいていた。どのような点においても父親の僕よりも知識が劣っていることに同意しなかった。自分がどのように導き、教え、命令すべきかを知るために、まずどのように仕えるかを学んだのである。(ユース・インストラクター 1898 年 4 月 14 日)

エリシャはエリヤの地位に立った。小さなことに忠実であつた彼は、大きなことにもまた忠実であることを示した。(教育 58)

モーセは見えない方を 見ているようにして忍びとおした

「信仰によって、彼は王の憤りをも恐れず、エジプトを立ち去った。彼は見えな
いかたを見ているようにして忍びとおした。」(ヘブル 11:27)

モーセは、神の栄えと、踏みつけられているイスラエル人の救済のために、エジプトの栄誉を犠牲にした。そのとき、神は、特別な意味において、モーセの教育を引き受けられたのであった。……彼は神の力に信頼することについて、教訓を学ばなければならなかった。彼は神の御目的を誤解していた。彼は、武力によるイスラエル人の救済を念願していた。彼は、このためにいっさいをかけて失敗した。敗北と失意の中に、彼は異郷に難をのがれて亡命した。……表面は一生の任務から永遠に切り離されたかのように見えながら、実は、その任務の達成のために訓練を受けていたのであった。……彼は、イスラエルの忠実な忍耐強い牧者となるのに必要な経験を得なければならなかった。……荒野のきびしい質実さの中にあって……モーセが身につけたものは、彼の骨折りと苦労にみちた一生の年月を通じて変わらなかった。それは実に神のご臨在についての自覚であった。……人々に誤解され、誤った評判をたてられたときにも非難と悪口を忍び、危険と死に直面しなければならなかったときにも、彼は、「見えないかたを見ているようにして」耐え忍ぶことができた。(教育 59-61)

モーセは知恵と高潔さの点で、地上のすべての統治者と政治家に勝っていた。……彼はやさしく、気高くて、分別があった。彼には欠点がなかった。そして彼の特質はただ中途半端なものではなかった。彼は同僚たちに上手に訓戒を与えることができた。彼の生きた生活が人間はどんな者になり得るか、神が助け手であるなら、どんなことができるかを教えていた。……彼は心から語った。そしてそれは人々の心に達した。彼は知識に熟達していたが、彼の深い同情を表明することにおいては子供のように単純であった。彼は著しい天性を授けられていて、周囲のすべての者の必要について、ただちに判断することができた。……「柔和な特質を持つ人が信頼されうるのである。その人を通して、私は私自身を世に対してあらわすことができる」とキリストは仰せになる。そういう人は織物の中に自己中心の糸を織り込まないであろう。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 卷 1113)

厳しく試みられたが、 人となりは全く、かつ正しかったヨブ

「ウズの地にヨブという名の人があった。そのひととなりは全く、かつ正しく、神を恐れ、悪に遠ざかった。」(ヨブ記 1:1)

神の国の原則である無我の精神は、サタンの憎む原則で、サタンはそういう原則はあり得ないと否定する。大争闘が始まって以来、サタンは神の行為の原則が利己的であることを証拠立てようと努力してきた。彼はまた神に仕えるすべての人に同様な態度で接している。このサタンの主張を反駁することがキリストの働きであり、キリストの名を持つすべての者の働きである。……

世界歴史の古い時代に、サタンとこの争闘を交えたひとりの人間の一生の記録が残されている。

人の心をさぐられる神は、ウズの族長ヨブについてこう証言しておられる。「ヨブのように全く、かつ正しく、神を畏れ、悪に遠ざかる者の世にない」と。

サタンは、ヨブをあざけてこう非難した。「ヨブはいたずらに神を恐れましようか。あなたは彼とその家およびすべての所有物のまわりにくまなく、まがきを設けられたではありませんか。……

神はサタンに仰せになった。「見よ、彼はあなたの手にある。ただ彼の命を助けよ」と。

こうして許しを得たサタンはヨブの所有物を、家畜、奴婢、むすこ娘にいたるまで一切を奪い、さらに「ヨブを撃ち、その足の裏から頭の頂まで、いやな腫物をもって彼を悩ました」とある。

さらにまた、ヨブの杯にはもっと他ののが味が加えられた。逆境は罪の報いであるとしか考えることのできない人たちは、傷つき重荷を負っているヨブを、お前が悪いことをしたからだと非難して、その苦しみを増し加えた。……「彼がわたしを試みられるとき、わたしは金のように出て来るであろう」と彼は言った。そしてその通りになった。彼は、根強い忍耐をもって自分の品性を擁護し、そしてまた自分の代表している神のご品性を擁護した。……こうして主はヨブの終りを初めよりも多く恵まれたのである。(教育 173-177)

パウロは盲目になったのでキリストを見た

「そこでアナニヤは、出かけて行ってその家にはいり、手をサウロの上において言った、「兄弟サウロよ、あなたが来る途中で現れた主イエスは、あなたが再び見えるようになるため、そして聖霊に満たされるために、わたしをここにおつかわしになったのです。」（使徒行伝 9:17）

モーセはエジプトの軍官学校で、武力の法則を教えられて、これが彼の品性に根強い影響を与えたために、彼がイスラエルを愛の法則で指導するのにふさわしい者となるには、四十年の長い年月を必要とした。これと同じ教訓をパウロも学ばなければならなかった。

ダマスコ門外でパウロの見た十字架のイエスの異象は彼の全生活を一変させた。迫害者が弟子となり、教師が生徒となった。ダマスコで孤独の中に送った暗黒の幾日間は、彼の幾年もの経験に匹敵した。彼はキリストを教師として、記憶にたくわえられていた旧約聖書を学んだ。彼にとってもまた静寂な自然界が学校となった。彼は、アラビアのさばくに行つて、そこで聖書を学び、神について学んだ。彼は、それまでの自分の人生を支配していた偏見と慣習を頭からとり去つて、真理の根源である神から教えをうけた。

彼の後半生は、自己犠牲と愛の奉仕というただ一つの原則によって貫かれている。「わたしには、ギリシャ人にも未開の人にも、賢い者にも無知な者にも、果すべき責任がある。」

パウロは、高い教養をそなえていたが、同時に彼の一生には、それよりもすぐれた知恵の能力が表わされている。最も深い意義をもった原則、当時の最も偉大な知者たちの知らなかった原則がパウロの教えの中に示され、彼の生活に例示されている。彼は、あらゆる知恵の中の最大の知恵をもっていた。それは、人の心を機敏に見抜いて、これと思いを同じくし、人々と接触してその善良な性質をよびおこし、彼らを奮起させていつそう高い生活へ進ませる知恵であつた。……

彼はまたこう言っている、「はずかしめられては祝福し、迫害されては耐え忍び、ののしられては優しい言葉をかけている。」「悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。」（教育 63-66）

変わることを拒んだゆえに失敗者となったモアブ

「モアブはその幼い時から安らかで、酒が、沈んだおりの上にとどまって、器から器に、くみ移されなかったように、捕え移されなかったので、その味はなお存し、その香気も変ることがない。」(エレミヤ 48:11)

人は神の勧告や忠告に聞き従うことを拒むことはできる。彼は自分の行動を自分自身の手の中に収めて決めることを選ぶこともできる。……モアブのように、変えられることを拒むこともできるのである。……主がはっきりと彼の働き、その特権、その機会、また果すべき向上を指摘されても、品性の不完全な特徴を正すことを拒む。自分の古いやり方をやめたり、自分の考えや方法を変えるのはあまりにもわずらわしいのである。「その味はなお存」在する。彼は自分の欠点に執着している。(手紙 10, 1897 年)

神が与えて下さった働きに満足しない人がたくさんいる。彼らは、神が自分たちのためにしるされた場所で、喜んで神に仕えたり、自分の手に神が置かれた働きをつぶやかないで行うことに満足しないのである。わたしたちが義務を行う方法には満足しなくても、義務そのものに不満を抱くべきではない。なぜなら……神はみ摂理のうちに、人間の病的な心の薬として奉仕を人の前に置かれるからである。……神はゆるやかな教理や過度の放縦がその人のわなにはならない場所、また彼らが時の価値を感謝し、その時を最上にまた最も賢く用いることを教えられる場所に、ある人々を置かれる。

支配権を持つことを欲する人、また服従という清めの必要な人々がいる。……この人々は、自分が訓練して得た能力が、最も大切な奉仕に用いられる準備をしている人々である。神はある人々を、失望し、はっきりと失敗するにまかせることにより訓練される。彼らが困難を克服することを学ぶのが、神のご目的である。……

多くの人は神のためにどのように働くかについて無知であるが、それは彼らが無知である必要があるからではなく、神の訓練過程に従う意志がないからである。モアブは失敗例として語られている。なぜならみ言葉は「モアブはその幼い時から安らかで」と宣言しているからである。(原稿 79, 1903 年)

Good Way Series 研究 2-7



教会と残りの民 (Ⅶ)

2. 残りの教会における分離

わたしたちはすでに、パプテスマのヨハネによって預言されたふるいが三段階において成就したことを知っています。(1) 残りの教会が組織された時のユダヤ教会における分離、(2) 残りの教会(キリストの弟子たちの中)における分離(3) その後のユダヤ教会におけるもうひとつの分離。二つめ(弟子たちの中で起きた分離)については、預言の霊は次のように述べています。

「この弟子たちは、自分たちの不信を公然と譴責されたので、一層イエスから遠ざかった。彼らは非常に不快だったので、救い主を傷つけてパリサイ人の敵意を満足させようと望んで、イエスに背を向け、軽蔑の色を浮かべて立ち去った。彼らは自ら選択して、精神のない形式、実の入っていない殻を取った。かれらは再びイエスと共に歩まなかったからである。

『箕を手にとって、打ち場の麦をふるい分け、麦は倉に納め…るであろう』(マタイ 3:12)。それはふるい分けるひとつの時代であった。真理のみ言葉によって、殻は麦から分けられつつあった。彼らは、うぬぼれが強く、独善的で、譴責を受け入れることができず、また世俗への愛着のためにつつましい生活を受け入れることができなかったので、多くの者がイエスから離れた」(各時代の希望中巻 143)。

歴史は繰り返します。今日、「小さな残りの群れ」(教会への証 5 巻 213) もふるわれるはずです。ホワイト姉妹は彼女の著書の多くの預言で「残りの民」のふるいについて言及しました(教会への証 5 巻 472, 473)。

母教会は「その指導者であるキリストに従うことをやめて、確実にエジプトに後退しつつある」一方(教会への証 5 巻 217)、「小さい残りの群れ」は(教会へ

の証 5 巻 213)、「終わりに近づくほど」天に向かって歩んでいます、その道はますます細くなります。そして道中ずっとこの小さな群れの中でふりがあるのです。ホワイ姉妹は次のように語っています。

「わたしたちはそれから欠乏や困難に自ら慣れてこなかった人々のことを考えた。そのような人々は今どこにいるであろうか。彼らはこの群れの中にはいなかった。変化があるたびに、ある者があとに残された。そして困難に耐えることに慣れてきた者だけが残った」(教会への証 2 巻 595)。

この群れはまた初代文集の 439, 440 ページでも見えてきます。そこではふりが再臨信徒たちを分けています。また彼らがまことの証人の率直な証に反対した人々から分離した後の彼らの経験は何でしょうか。ホワイ姉妹は次のように記しています。

「すると、わたしは前に大いにふるわれるのを見たその一団の人々に注目した。…この一団の数は減少していた。ある者は、ふり落とされて、途中に残された。勝利と救いを尊んでそのために忍耐強く嘆願し苦悩した人々に加わらなかった不注意で無関心な人々は、それにあずからず、暗黒のうちに打ち残された。そして、彼らの場所は、真理を信じて隊列に加わる人々によって、直ちに補充された。悪天使たちは、なお彼らの回りにつめ寄ったが、彼らに打ち勝つ力はなかった」(初代文集 439, 440)。

明らかにこの勝利する群れは、「神の怒りの一撃をまず第一に感じる教会—主の聖所」(5T211) と同一ではありません。この二つは非常に区別された描写がなされています。不忠実な信徒たちが終わりで母教会に残る一方、改心していない信徒たちは戦う小さい群れに残っていることができません。このことは繰り返しわたしたちに注意を促しています。その他の預言の言葉を考察してみましょう。

「教会は尚、苦難の時を経るであろう。教会は荒布をまとって預言をするようになる。教会は異端、迫害に会わなければならない、無神論者や背教者たちと戦わなければならないが、なお神の御助けによって、サタンの頭に傷を与えている。神ははがねのように真実で、花崗岩のように堅固な信仰を持つ民を持つようになる」(教会への証 4 巻 594)。

「主は不満をいだいている人々が、真実で忠実な群れから離れるように働かれるであろう」(エレキッド・メッセージ 3 巻 422)。

「教会は今にも倒れそうに見えるかもしれないが、倒れない。シオンにいる罪

人がふるい出され、もみがらが尊い麦から分離される一方で、教会は残るのである。これは実に恐ろしい試練であるが、このことは必ず起こらなければならない。小羊の血と彼らのあかしの言葉によって打ち勝った者以外にはだれひとり、忠実で真実な者と共について、罪のしみや汚れがなく、口に偽りのない者と共に見いだされることはないであろう」(『セレクトド・メッセージ』2巻380)。

...

「世と結合することによって」母教会は「あらゆる汚れた憎むべき鳥の巢窟」となり(『ビュー・アンド・ヘアルド』1895年2月26日、牧師への証265)、それによって神の怒りが災いの注ぎ出されるときに忌むべきもので満ちる一方(教会への証3巻267、教会への証5巻211)、残りの教会は「『月のようにうるわしく、太陽のように輝き、おそるべきこと軍旗を立てた軍勢の』ごとく見えるであろう」(教会への証5巻82)。

母教会は神の怒りの第一の標的となる一方(教会への証5巻211、212)、残りの教会は神の怒りから守られます(国と指導者下巻328、329)。

母教会は最後まで不忠実な牧会によって奉仕を受け(教会への証5巻211、212)、残りの教会は忠実な牧会を持つようになります。

「自ら不忠実であることを証明した人々は、その時には群れをまかされることはない。最後の厳粛な働きでは、ごく少数の偉大な人々がたずさわるであろう。…主は忠実なしもべたちを持っておられる。彼らはふるいと試みの時に人々の目の前に現れるであろう」(教会への証5巻80)。

「間近に迫っている大いなる事件は、神が任命されなかった者を根こそぎにするであろう。そして、このお方は後の雨のために備えられた純潔で真実で、聖化された牧会を持たれるであろう」(『セレクトド・メッセージ』3巻385)。

神さまはこの栄光に満ちたご自分の新しい世界を、どれほど注意深く、どれほどすばらしく、ひとつひとつ細やかに計画を立てられたことでしょうか！

今は六日目の午後おそくなりました。ほとんど太陽は西の水平線にすぎみかけています。神さまの創造の働きはほとんど終わりました。このお方が人のために完全な家を造ろうとしたことは、みななされました。すべてのもの、そう一つのを除いては。このお方は地を無から創造なさいました。このお方が海から地を分けられました。このお方が山や丘をみごとな木々や花々でおおわれました。このお方が鳥、魚、動物を造られました。これらすべての有終の美として、神さまは人を「ご自分のかたちに」創造されました。人、すなわち神様の最高傑作（さいこうけっさく）、ご自分の愛の最高の対象、このすべての美しさや豊かさは人のためでした。しかし、なお、なされなければならないことが一つ残っていました。与えられるべき最後の美しい祝福、創造の一週間でなされたすべての中で、もっとも甘く、もっとも愛すべき最後の一つです。

ほくほくカリフラワーのフライ

■材料

カリフラワー	1 株
パン粉	1 カップ
小麦粉	1/2 カップ
片栗粉	大さじ 1
水	1 カップ
昆布顆粒だし	大さじ 1/2
塩	少々
カレー粉	少々

■作り方

1. カリフラワーを小房に分け 食べやすい大きさに切ります
2. 沸騰したお湯で 1 分ほど下ゆでします
3. 小麦粉に水とコンソメを入れます。(天ぷらよりサラサラで大丈夫です)
4. 下ゆでしたカリフラワーを入れてしっかり混ぜます
5. パン粉をつけたら 170 ～ 180 度の油で揚げて完成です

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



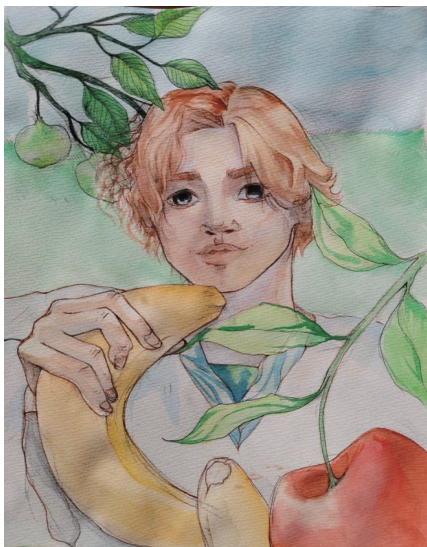
聖書物語

パート1 第18話
アダム最初の食事(II)

ですから、彼は自分で選ぶことができます。すべてが彼のためのものです。しかし、これほどたくさん、すばらしいものが自分の目の前にあるので、彼はまずどれから食べようか決めるのが大変でした。バナナ、おそらく、もしくはりんご、あるいはたぶん、いくつかのアーモンドやペカン、それともブドウの房でしょうか。まあ、なんという問題でしょう！

どれを最初にとったかがわかることはありませんが、ひとつはっきりしていることは、アダム最初の食事は、人が食べた食事の中でもっともおいしかったに違いないことです。まだ存在するようになってから3日しかたっていない新鮮なメニューには、創造主のみ手からあらゆる種類がありました。なんとおいしく、なんといい香りがしたことでしょう！彼と一緒に食べたかったと思いませんか？

そして神さまが動物を造られるまえに、動物が食べる草を創造されたのが、どれほどすばらしいことか、考えたことはありますか？またこのお方が



人を造られる前に、人が食べ物として必要とする果物やナッツの木を造られたことが、どれほどすばらしいか。そして神さまが木々やつるや草を造ってくださったとき、彼らが必要としている要素—ミネラルやビタミン—つまり、生きている被造物（ひぞうぶつ）が生き続けるためにちょうど必要なものを、地からとることができるようにしてくださったのはなんとすばらしいことでしょう。

（43 ページに続く）